

交流会全体の感想

司教さまや一場神父さまのお話を伺えたことが、一番の収穫でした。シノドスへの理解と思いを深めることができました。また小グループの分かち合いでは、他教会の取り組みや問題点をお聞きし、同じ課題を抱えていると共感したり、ぜひうちでも実行したいと思う良い仕組みを知ったり、得るものが多い交流会でした。

シノドス的歩みの継続が教会に不可欠なことが感じられた。

各小教区の役員危機感の強まりが感じられて、今まで以上に実質的な集まりになったと感じています。

司教様、一場神父様のお話、信徒の分かち合い、ブレイクアウトルームでの分かち合いと、とても盛りだくさんの内容で、よかったです。

昨年につき2回目の参加でしたが、今回はスムーズに分かち合いができたと思います。

新役員です。初めての交流会でした。全体の流れを確認出来ました。まだまだ分からない事だらけですが、頑張っついて行きたいと思っております。

良きメンバーに恵まれて、心の底にずっとあった事柄を思わず自然に話すことができ、自然な共感をいただきました。分かち合いを通して、「ひとりぼっちではない」という喜びを感じ、今後に向けた小さな勇気を与えていただきました。

お話全体の流れは理解でき共有できたのではないかと考えています。

他教会の奉仕活動の様子がコロナ禍が続いた中でも模索されてきた実態を聞いて刺激になりました。

他教会の役員の方と色々なお話できたので有意義な交流会でした。

他の教会ではコロナ禍をどのように過ごされているのかお伺い出来て良かったです。

リモートで参加しやすく、集中して話を伺えました。

どこの教会も高齢化、情報の徹底、役員のなり手が無いなどに悩んでいることが分かった。与えられた条件の中で、役員同士問題を共有し、ともに進んでいくしかない。

シノドスの展開について小教区で差があることを感じた。今後の参考にしたいと思います。

グループ分けで、他の教会の話が聞いてとても参考になりました

同じ教区でありながらなかなか交流できない（コロナ前も）状況ですが、交流会があるおかげで他教会の様子を知ることができる点が良かったと思います。

交流会全体の感想

自分の部屋から参加できるのは気分的にも楽でありがたいです。他教会の方をお話できるのも楽しいし、司教様や神父様から直接お言葉をもらえるのも励まされました。

司教様、神父様、スタッフの皆様、いろいろとお世話になりありがとうございました。交流会では、研修会の振り返り、シノドスの経過報告、他ブロック役員との分かち合いなど有意義な時間に恵まれました。同じ信仰を持つ方々、そして普段はお会いしない方々と交わることで、後からそのときのことを黙想していると、自分が勇気づけられ、信仰の力が増してくる実感があります。信仰の神秘だと思います。京都教区ならではの役員研修会・交流会の取り組みは、毎年続けていくことで、天には大きな喜びがあると信じます。今後ともよろしく願いいたします。

対面のほうが、皆さんの顔が見えてよいのですが、分かち合いはスムーズにできてよかったです。

ZOOM会議にほんの少し慣れてきました。司教様のお話にもあったように時間短縮できてこのような形も良いとおもいました。司教様が何をしててもシノドスとのお言葉に心から納得、生活のすべてがシノドスと改めて感じました。

スムーズに流れて良かった。

スムーズな進行と信徒間の意見交換も活発でよかったと思う。奈良、久居教会の事例発表は参考にもなり、共感も多く得られた。

各教会及び日本のカトリック教会の課題が分かりました

シノドスの回答が小教区⇒教区⇒日本⇒ローマへと流れていく状況が良く分かりました。同じ課題（シノドスへの回答づくり）への回答作成を各教会がどのように対応されたか興味ありましたが、大変参考になりました。

分かち合いについて

時間(35分)			分かち合いの感想
良	短	長	
○			他教会の取り組みや問題点をお聞きし、同じ課題を抱えていると共感したり、ぜひうちでも実行したいと思う良い仕組みを知った。
	○		35分は少し短く、45分はあったほうがよかったように感じる他の小教区の様子がわかったことがよかった。役員としての悩みに共通点もあるが、小教区ごとに異なる対処法が考えられていることが、参考になった。
	○		分かち合いのグループ全員が、活発な分かち合いをすることが出来て、もっと話の内容を深めたいと思いました。
○			
○			他教会の取り組みを聞くことができ、とても有意義な時間でした。普段は交流のない他教会の方と話をする機会を持てたこと。6人という少人数での話し合いのため、全員に発言の機会が与えられたこと。
	○		分かち合いの人数は時間的に良かったと思います。盛り上がってきたときに終了となった
	○		シノドスに関する話を4人が十分できなかつた。去年はみんなが黙ってしまう事があったけれども今年はスムーズでした。最初に誰が進行役をやるかを決めたのが良かったと思います。
○			受礼後まだ6年の新米です。そんな私にもお話の機会をふって頂き、アットホームな雰囲気の分かち合いに心しみ、素敵な分かち合いのひと時を頂きました。感謝です。四名皆様が温かくて、笑顔で率直に話せて、笑い声も溢れる分かち合いになったからだと思います
○			良きメンバーに恵まれて、心の底にずっとあった事柄を思わず自然に語る事ができ、自然な共感をいただきました。分かち合いを通して、「ひとりぼっちではない」という喜びを感じ、今後に向けた小さな勇気を与えていただきました。
○			グループが4人でしたのでちょうどよくなりました。各小教区のお話を聞けたことが良かったと思います。各教会の現状の運営等が直接お話が聞けたことです。

時間(35分)			分かち合いの感想
良	短	長	
<input type="radio"/>			
<input type="radio"/>			各地域の現状を伺えて面白かった(興味深かった)、課題や取り組みを聴かせていただき、参考になった。順番に発言でき、顔も良く見えて、傾聴しやすい。時間(進行)を意識して、スムーズに話ができ、とても有意義な時間でした。
<input type="radio"/>			良かったと思います。
<input type="radio"/>			良いと思います。
<input type="radio"/>			
<input type="radio"/>			
<input type="radio"/>			各教会の状況と取り組みがいろいろと聞けて、とても参考になりました。
<input type="radio"/>			
<input type="radio"/>			お互いの教会の状況を聞いて「どこも同じだなあ」と思うところが多かったです。若い人がいなくて、呼び戻すのに試行錯誤している、いわゆる「声の大きな人」がいて困ることなど。長老的な役員さんは積極的に1人1人と向き合っておられて、素晴らしいなあと思いました。
<input type="radio"/>			分かち合いの時間は、分かち合いををどのように進めていくかによると思います。今回の進め方であれば35分でも問題なかったように感じました
	<input type="radio"/>		
	<input type="radio"/>		やはり、45分くらいはあったほうが良かったかと思います
<input type="radio"/>			
<input type="radio"/>			唐崎、長岡教会の方々との分かち合いも、普段聞けない意見交換ができて良かった。
<input type="radio"/>			情報共有の良い機会でした。各教会の知らなかった課題、世代交代、外国人信者の増加を知る機会となりました。
	<input type="radio"/>		3教会6人で分かち合いましたが、全員が意見を言い、対話を続けるには時間が足りなかったです。

zoomでの分かち合い

オンライン会議には不慣れですが、対面よりも簡潔に発言できたように思います。お互いに顔しか見えないので、対面で生じる間合いが短くなるように感じました。

対面での分かち合いでは、一人の人が長い時間話すという体験が多かったですが、ZOOMの場合の方が、時間配分が上手く出来たように思われます。程よい緊張感があるのではないかと思います。

河原町教会で聞くより、発言者の言葉に集中できたので良かった。メモも取りながら聞くことができた。
分かち合いは、現地でする場合は、前後にかなりの準備時間が必要ですが、瞬時に画面が切り替え良かった。これで10分以上の時間の節約になる。
また、zoomは基本一人しか発言できないので、それぞれがきちんと各教会の状況を発言でき良かった。
三重とか滋賀などの役員も特に交通費や時間を使うことなく、分かち合いに入ることができて、コロナ渦以降の新しい、分かち合い形式だと思います。

- ①席の移動、説明などの前後の時間がなく、瞬時に分かち合いに入れて良かった。
- ②参加者の顔とクリアな声を聴くことができ、対面よりも集中でできた。
- ③個人的にはパソコンでメモを取りながら聞くことができ、内容がよくつかめた。
(現地の分かち合いで、パソコンによるメモを取るのはやや、めだつため)
- ④各教会で固定化した各部の担当へ、新しく教会へ入った人を誘導するいろいろな工夫が聞け良かった。

よかった。緊張せずに語ることができる。発言者の話に、緊張せず集中して聞き入ることができる。

有難いです。コロナになったお陰で世の中が様変わりましたが、現地に行かないで自宅から参加出来るのは有難いです。教会の役員たちはZoomが普及したおかげで より密に評議会は開いてきました。他の教会のミサにWebで参加も出来ます。大変便利な世の中になりました。

移動時間、移動費用などが不要でメリットが多いと思います。

司教様も仰っていた通り、自宅に居ながらみなさまとお話が出来るので、便利だと思います。

とてもよかったです。集中ができて、移動の時間も不要なので参加しやすいと思います。

日ごろから、週1～3ぐらいで利用しているので、なれば、便利に使いこなせる。丁寧に手引きしてくださって、宣教企画室の方のご苦労に感謝します。

移動時間を考慮すると効率的かもしれませんが、集合のほうがより印象がより強く感じる事ができるのかと思います。

zoomでの分かち合い

以前は河原町教会まで行かないといけなかったので少ししんどいと思っていましたが、zoomになって体力的にかなり楽になった事は確かですが、何かモヤモヤしたものが残ります。それはたぶん同じ空間にいて温度を感じながら話ができないというもどかしさなのかと思います。

ZOOMの体験が前回の研修会に続き2回目だったので、参加前は対面と同じように違和感なく話し合えるか不安でしたが、音声の時間差など特に不都合は発生しなかったので、思っていたより対面に近い話し合いができたように感じました。このような環境でしたら慣れていけばZOOMでも問題なく分かち合いができるように思います。どちらかと言うと、私は対面での分かち合いの方が、直接、皆さんの声と表情を感じられることで、落ち着けて楽しく過ごせるように思います。河原町教会などに出かけていくことが巡礼の旅になり、旅程も楽しめます。しかし、私よりもっと遠方の方々がZOOMでの開催をお望みになるのであればやむを得ないと思います。研修会の際のように聴講するだけであればZOOMで十分だと思います。

お顔が見えるし、少人数でしたのでよかったです。

それぞれ話しやすい雰囲気でした。4人くらいの人数がよかったですと思います

よかったが、声が聴きとりにくい時があった。

- 1) 多くの教区の方々との意見交換により、その体験経験を今後の共同体づくりに活用できるから。
- 2) ZOOM会議に慣れてきた。
- 3) ホームグラウンドでリラックスでき、集中して参加できる。

少し込み入った話も聞け、対話をしている感じがしました。臨場感は減少しますが普通では参加できない人も参加でき意味があると思います。ブレイクアウトルーム方式で限られたメンバーで話し合え理解は深まりますが、他のグループの内容も知りたいです。時間、旅費などを考えると、京都へは限られた人、人数しか参加できないけど、ZOOMでは環境が用意できれば参加できるので負担感が少なくなります。

今後の開催方法

技術・方法的に
会場への往復にかかる時間と費用を考えると、今後もオンライン開催が望ましいと思います。
役員交流会に関しては、瞬時に分かち合いに移動できるので、今回の方法はいいと思います。 役員研修会は、参加した役員だけでなく、評議員もyoutubeで後から神父様の話を聞き、それを評議会で分かち合えたので、むしろ、これまでの河原町教会での研修会よりも良いと思いました。今回のように、ALL ZOOMとかyoutubeの場合は簡単ですが、現地+zoomをする場合は、zoom対応の複数のマイク+スピーカーに対応したシステムが必要になり、今後はそういう会議も増えてくるように感じました。
京都まで行くのに時間がかかる教会も多いと思うので、オンラインでの話し合いはいいと思います。 でも、顔を合わせての交流会は、オンライン交流会では得られない、話し合い以外の場での情報もたくさん得られるので、コロナがおさまったら、毎年でなくてもいいので、直接の交流会も企画して欲しいです。
コロナ禍でなくてもオンラインがいいと思います。時間と経費。オンラインなら年に数回開催できるのでは。
zoomで簡単に分科会ができるという、IT技術に驚いた。
教区全体ではこのzoom参加の方法が各自負担が少なくより多くの方の参加があるのではと思っています。
得体の知れないウィルス感染症、人と人との接触で新型コロナウイルスは命を生きながらえてるため、私たち人間社会は生活にソーシャルディスタンスが要ります。今までのような分かち合いはできないが、分かち合いの新たな形を模索していくことが求められてるように思われます。
WEBの研修や会議は、移動時間を考える必要がなく、とても便利でありがたいです。
コロナが終息したら、対面も良いと思っています。
zoomも利点が多いとは思いますが、コロナ終息後の研修会、交流会は、参加者全員は無理でもより多くの方々との直接対話がしたいです。それによって自分の教会が持つ悩みなどを解決する糸口を掴むことができるかもしれないからです。
Zoom開催はいいと思います。前期のお話中心の会はZoomで、交流会はリアルでももいいかなと思いました。
zoomで良いと思いました。
やはり ZOOM会議では 参加できない方も多いので コロナが終息すれば集まるのがいいと思います
コロナ終息後もZOOM方式は継続して頂ければありがたいです。一方、ZOOM会議と共に面会式の集いも頃合いを見て進めてもいいのではと思います。両者併合のハイブリッド方式でも良いと思います。いつも複数の役員が同席して参加しています。ZOOMに慣れていない、ZOOM環境にないことが第一の理由ですが、情報共有のためには個別（ほとんど各教会1人）参加よりいい方法と思っています。

内容的に

分かち合いの内容はその場限りという原則だが、内容によっては、参考になることもあるので、オープンにできるアイデアや工夫を、共有できる場ができないだろうか。

人間関係をどのようにして築いていくか、問題があったときにどのようにして修復していくか、などの課題は、共同体づくりに大きく関係するようになった。専門的知識をもった司祭または信徒に、助言を求めて、ワークショップのようなことができないだろうか。司祭・信徒で適当な人材がいなければ、協力してもらえらる専門家を紹介してもらってもよいと思う。「仲間」「聴くこと」は体験的な学習が必要なテーマだと思うが、専門家でなくても、関心のある信徒の積極的な提案を汲み上げる場もあればよい。

普段絶対お会い出来ないような方と分かち合いができるのは素晴らしいと思います。パソコンが苦手な人も簡単に参加できるという事を広めていければと思います。役員は今年で終わりますが、来年も参加したいと思えてくるような素晴らしい企画だと思います。

このような機会を是非続けてください。

今回のような交流会で良いと思います。

コロナ禍も随分収まってきているので、2回のうち1回は実際に顔を合わせたほうが良いと思う。登美ヶ丘教会からの参加は、4人の役員の内1人だったので後の話し合いもしにくい。

ともかく、役員は物心両面でしんどい思いをしている人が多いですし、おおいに褒めていたわっていただけたらありがたいと思います。

交流会では分かち合いの対象が広いために深く掘り下げた分かち合いが難しかったように思いましたので、あらかじめ複数のサブテーマのようなものを設定しておいた上で、グループごとに異なるサブテーマを分かち合うことは考えられないでしょうか。事前に各参加者が関心のあるサブテーマを第三希望ぐらいまで教区に申告しておき、教区で人数構成に配慮したグループ分けをしていただくことができれば、サブテーマに関心がある参加者どうしが深く掘り下げた分かち合いが実現していくように思います。サブテーマは研修会で神父様にお話しいただいた内容を踏まえて、たとえば「自己開示」、「制度や行事ではなく人のための教会運営」、「教会低迷期の苦しみと喜び」のように設定する他、もし可能であれば役員から分かち合いたいサブテーマを募ってもいいかもしれないと思います。

1) 初めに司教様、神父様のご講話からスタートすると、初めての参加者も参加しやすいので、これを続行していただきたい。2) 交流会の事前に、参加教区がどこか、またグループワークがあるならばどのグループに所属するのか予めわかるとよい。

コロナ終息後もZOOM方式は継続して頂ければありがたいです。一方、ZOOM会議と共に面会式の集いも頃合いを見て進めてもいいのではと思います。両者併合のハイブリッド方式でも良いと思います。いつも複数の役員が同席して参加しています。ZOOMに慣れていない、ZOOM環境にないことが第一の理由ですが、情報共有のためには個別（ほとんど各教会1人）参加よりいい方法と思っています。

その他

シノドスのまとめを目にして、私が一番強い印象を持ったのは「宗教（カトリック）が奇異な目で見られる」という意見が多かったことです。その一方で、ロシアのウクライナ侵攻、統一教会問題等々の悲惨な出来事を通して、主イエスの「愛し合いなさい」と言う言葉が鳴り響いているように感じます。私が関わっている小教区の小さな集まりで、このことを分かち合おうと思っています。

シノドスと聞くと難しく構えてしまう所がありますが、温かい分かち合いが出来る雰囲気こそが、共に歩く道・共に歩いて行ける道なのかも知れない、と感じました。

小教区やブロックの目標は、それぞれ何のためにあるのか、よく理解できておらず困っています。来年度のブロックの目標をブロック会議で小教区の各役員一人ひとりが提案することになっており、役員1年目として、かなり困っています。一般に、「目標」は、それに向かって誰がどのように何をするか、活動なり行動なりの計画を立てる必要があると思うのですが、そもそもブロックの目標、小教区の目標というのは、どのような考え方で設定するものなのか、教えていただけないでしょうか。

司教様にお願いがあります。
コロナ対応の指針として2020年に出されて以来新しいものが出ていないので、次の指針が出るまでは2020年のものを守る…というのが神父様の方針です。時代は変わっていくので次の指針を出していただきたくお願いします。

信徒どうしの分かち合いは教会共同体の成長にとって大切な交わりと思いますが、教会内で分かち合いすることに気が向かない信徒が少なくないように感じます。この現実から思うことは、私たち信徒一人ひとりが一層祈りに専心することで、神との交わりの体験を重ね、いつでも神を信頼し神と共に歩む生活していくお恵みを育てていくよう努めていく必要を感じるころです。こういった神との交流が喜びや苦しみを分かち合いたいと思える源になるのだと思います。交流会でも司教様から「霊的サポートの確立」、一場神父様からは「聖霊の識別とそのため訓練」といった趣旨のお話もございました。私たち信徒一人ひとりが、聖書を読むときに黙想することで御言葉を自分のものにしようとしているか、日常生活で聖霊を信頼して導きや招きを受けてそれに応えようとしているか、といったような視点での信仰養成を教会内で少しでも進めていき、できるだけ多くの信徒が喜びの中で進んで分かち合うことができるような教会共同体を目指すような共同司牧を進めていければと考えています。今後ともご指導よろしく願いいたします。

コロナ禍の中で教会全体としての意見を出しあう場が持てなかったのですが、4地区ごとに分かれた地区集会を3年ぶりに実施する予定です。シノドスは終わったのではなく今一度みんなで一緒に話し合いたいと思っています。

その他

これからも引き続きシノドスの分かち合いは続けるべきと思います。司教区がシノドスのアンケート結果からテーマ（具体的課題）を選び、1年間みんなで取り組み分かち合えば何か変わるのではと期待します。

11月27日より新式次第によるミサが始まりますが、聖歌を歌うことはいつから認可されるのでしょうか？ 当教会では、9月下旬より新式次第の冊子を配布、10月2日より、新式次第によりミサが開始されました。冊子を見ながらではありますが、移行は思ったよりスムーズにできていると思います。